

# 地域固有の伝統技術を持った専門家のデータベース整備による技術研修の実践及び伝統技術にかかる相談体制の構築

## <調査概要>

■ 調査実施地域: 沖縄県今帰仁村

■ 調査実施者: 一般社団法人沖縄県古民家再生協会

- ・ここ10年で木造住宅の数が半減している沖縄県において、現在も活動を行っている伝統的木造技術をもった専門家について調査を行ったうえでデータベースとして整備し、このデータベースを有効に活用した伝統技術研修の実践を検証するとともに、古民家等の所有者が修理等で伝統技術をもった専門家を必要とした際の相談窓口となれる体制づくりについて検討を行った。
- ・調査の結果、伝統的木造技術者の半数ほどを登録したデータベースを整備することができ、これを活用した技術研修の実践を行ったが、カリキュラムや運営体制の整備においてさらなる工夫が必要となった。また、相談体制の検証においては費用の相談が多かったこと等から、公的資金活用などの資金的支援や賃貸条件の整備を行うことが今後の課題であるとわかった。

## <調査内容>

### ■ 伝統的木造技術者のデータベース化

沖縄における木造技術者が50人~60人いると推定され、その中から文化財補修工事に係った技術者にアンケートの実施や聞き取りを行い27人分のデータベース化を行った。

#### 内訳

- ・大工19人
- ・赤瓦葺き職人8人

### ■ 伝統技術講習の企画及び実践

伝統技術を学ぼうとする建築士や建築に係る職人、学生等を対象とした研修を実施。

- ・県内木造文化財補修事例講演会
- ・木工事継手仕口研修
- ・野地竹編み・赤瓦葺き
- ・漆喰塗り研修
- ・伝統的木造住宅構造見学会



#### 課題と対策

- 学校等で習得に必要な環境が整って無い為、持続的な研修運営資金の支援も今後の課題である
- 職人・学生の技術レベルの違いがある為対象別の基礎的なカリキュラムの必要性がある。

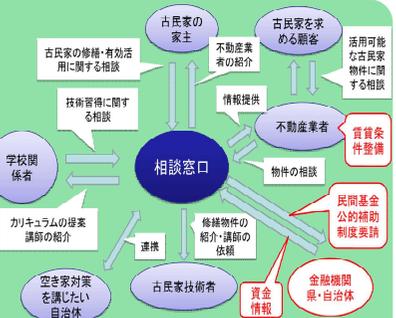
### ■ データベースを利用した伝統技術の相談体制の検証

#### 【相談内容の検証】

- ・技術的アドバイスは行えるが資金相談には答えられなかった。
- 自治体との連携による資金的・人材の支援体制が今後の課題

#### 【今泊地区民との意見交換】

- ・県外より空き家を求める声が多い、仏壇があり賃貸に消極的
- 家主・借り手側との賃貸条件整備が今後の課題



赤色部分を課題に対応して追加

今後、沖縄県風景づくり推進協議会の古民家再生部会との協働体制で運営資金の支援体制を検討

大工研修カリキュラム	職人対象	学生対象
1.座学=古民家の歴史・構造の特徴(現場見学、図面等)	2回	4回
2.道具整備=道具の種類・刃物研ぎ方・手入れ	1回	2回
3.継手・仕口等加工=墨付け・加工・構造模型組立	5回	6回
4.現場実習	4回	5回

赤瓦葺き研修カリキュラム	職人対象	学生対象
1.座学=赤瓦の歴史・特徴・製法・施工法	2回	4回
2.道具整備=道具の種類・手入れ	1回	2回
3.施工実習=野地竹編み・瓦葺き・漆喰塗り	5回	7回
4.現場実習	4回	6回